

B. 総合学習の研究

安藤富美子 石川 久美 *梶原 修 川合 勇治
桜井 洋子 田中 裕巳 徳井 輝雄 長谷川 弘
三橋 一夫 安田 知加

総合学習の理論と実践

— 新たな飛躍を旨として — (その4)

I. 授業「生命について」—— 1年間の流れ

田中 裕巳

高校3年生を対象とした総合学習科目「生命について」の第1年次の実践が終了した。この間、11月14日には本校中等教育研究協議会がもたれ、中間的な発表を行った。また3月には、昭和59年度からの教育方法等改善プロジェクト「生徒の学習意欲を高めるための様々な工夫」の報告書がまとめられ、私達のグループも、同プロジェクトの一翼として、今回の実践の準備段階から、1月までの授業実践の反省を発表しておいた。このように、この1年間は、中間的な発表の機会も多く、それらを御覧になった方には、屋上屋を架す事を恐れる気がないでもないが、本稿では、(1)受講していた生徒たちが総合学習からなにを学んだのか、(2)教師の側からの反省、(3)第2年次の実践に向けての課題、の3点に力点を置いて総括を行ってみたい。

4. 14 オリエンテーション(1)(総合学習とは、テーマについて)
- 15 オリエンテーション(2)(総合学習をなぜ選択したか)——ここまで前号にて報告
- 22 生命の誕生(1)(三橋……生物学における生命誕生の追求の歴史)
- 28 生命の誕生(2)(田中……創世紀、神話に見られる生命の誕生)
5. 6 生命を脅かすもの(徳井……戦争と公害、ダイオキシンの危険性、ベト君・ドク君)
- 12 老化について(石川……老化現象のメカニズム)
- 13 遺伝子操作(三橋……バイオテクノロジー、医学の発達と生命倫理)

- 19 生命の誕生と成長(川合……妊娠と出産、性の決定・分化、個体の成長)
5. 20 心の悩み(安藤……心身相関のしくみ、登校拒否、非行、家出、自殺)
- 30 中間テスト実施
6. 2 討論(1)(テストの答案をもとに、教師側の感想と生徒側の補足、討論)
- 3 討論(2)(同上)
- 9 脳死と臓器移植(梶原……脳死とは、脳死の判定をめぐる問題)
- 10 生命の思想史(田中……靈魂と身体、デカルトの心身論)
- 16 自殺と殺人(梶原……昨年の日本の自殺の統計から、熟年の自殺、若者の自殺)
- 17 生命と労働(徳井……労働の疎外)
- 23 人口論と食糧問題(徳井……人口論のもつ問題点、石川……食糧問題、有害化学物質の摂取)
- 30 遊びについて(川合……余暇時間とレクリエーション)
7. 1 生命の共同性(長谷川……ことばについて、田中……生命のリズム)
- 3 期末テスト実施
- 15 1学期のまとめ(期末テストをめぐる、2学期研究テーマの選択)
9. 8 2学期の調査・研究について(各自のテーマの確認とその深め方)
- 9 同上(お互いのテーマについての意見交換)
- 16 この日より、図書館にて関係図書の読書、まとめを中心とした自学自習。10.14まで合

* 昭和62年4月より県立日進西高校へ転出。

計7時間。

- 10. 18 中間テストにかえて、この日までに、発表用のレポート提出。
- 10. 27 心の悩み（後藤……中・高年の心理）
- 28 心の悩み（真城……幼児期の悩み、千葉……悩みについて）
- 11. 4 心について（奥村……自分が思うこと）
- 10 殺人について（市川……犯罪心理学）
- 11 自殺について（加藤……青年の自殺）
- 14 人間の営みと自然破壊（筑尾……核エネルギーの利用について） 研究協議会発表授業
- 17 人間の営みと自然破壊（江崎……大気汚染・地下水汚染）
- 12. 1 生命の思想史（藤村……ソクラテス、キリストの死生観、靈魂観）
- 4 期末テスト実施（今までの各発表について、意見と感想を書かせた。アンケートも実施）
- 9 遊びについて（中田……本校生徒へのアンケート調査の結果について）
- 15 日本の食糧問題（伊藤……各国民の摂取カロリー、農産物の海外依存率など）
- 16 言葉について（中原……失語症から）
- 1. 12 脳の男女差について（大貫……左脳と右脳）
- 13 一年間を振り返って・討論
- 19 “
- 20 報告書作製作業（各自ワープロに取り組む）
- 26 “

以上に見るように、教師の話を中心とした授業が1学期一杯行われ、生徒が実際に各自のテーマに取り組む作業を開始したのは、2学期に入ってからであったと言えるだろう。夏休みと言う比較的自由的な時間を利用して、読書なり調査なりができるようにと、夏休みに入る前に各自のテーマを決定していたにもかかわらず、夏休みは“総合学習”のためにはさほど利用されなかったようだ。高校3年生で“総合学習”を設定した限界であったのかも知れない。

9月から10月のほぼ半ば過ぎまでを各自の自主的な調査研究の期間とした。この間は、毎時間をムダに過ごさせないためと、各生徒の相談役として定めた指導教官に作業の進捗状況を把握してもらうために、スタディ・レポートの提出をさせた。きちんと提出できた生徒となまけがちの生徒との落差があり、それは、図書館での自主学習の態度そのものの反映であった。

10月27日の後藤悦子の発表から、生徒たちの発表に移行した。後述するように、準備不足で資料プリントもない怠け者の生徒もいたが、殆どの生徒は比較的良く準備も出来ており、そういう生徒の発表のときは、質問や意見のやりとりも活発であった。司会も生徒に

担当させたが、たんなる議事進行役に終わってしまい、討論を深めてゆくという観点からの司会はほとんど見られなかった。

1月12日の大貫愛子の発表を最後に、いちおう生徒による発表は全部終了した。その後、2回の「一年間を振り返って」の討論と、一年間の授業の成果をまとめるために報告書を作製する作業を行った。前述のプロジェクト経費で購入されたワープロを用いての各自の原稿作製作業であったが、生徒たちはけっこう楽しそうに取り組んだ。総合学習の目的の一つに、授業方法の総合化を掲げてきたが、全員でワープロに取り組むという作業は、もっと重視されても良いように結果的には感じられた。生徒13人に対して4台ということで、ちょっと触っただけで終わってしまったという生徒もいたが、自分の発表のときには、まだまとまっておらず、口頭発表に終わってしまった奥村は、2月に入って授業がないようになってからも、ワープロを打ちに登校し、自分の原稿を全部自分でワープロに入れた唯一の生徒であった。

この一年間の授業の流れの最後に、「生命について」というテーマとの関係で、さまざまな社会的事件が起こり、テーマを考える上で、タイムリーに重要な役割を果たしたことを指摘しておきたい。

- 4. 8 歌手岡田有希子さんが飛び降り自殺（総合学習の授業の始まる1週間前の事件であり、彼女が名古屋出身であり、また生徒たちと同年齢であっただけに、オリエンテーションの話し合いのときにも既に、話題となった。その後、後追い自殺という社会現象も現れ、「自殺」や「心の悩み」を自分のテーマとして選ぶ生徒が多かったことと無関係ではないだろう。）
 - 4. 26 ソ連・チェルノブイリ原子力発電所事故（5月に入って、日本でも野菜、牛乳、水道などから放射能が検出されるというニュースが報道され、また事故の規模の大きさ・深刻さが報道されるにつれて、教師・生徒共々、関心を寄せた。徳井の“生命を脅かすもの”の授業は5月6日であった。）
 - 5. 16 名古屋市で開かれていた日本法医学会総会で「脳死は医学的に個体死とすることができると考えられる」という脳死に関する委員会の報告がなされた。（17日朝刊）
 - 24 肝移植研究会（会長・陣内阪大名誉教授）が「①脳死状態からの臓器提供を原則とする、②提供者の年齢は60歳以下」などの肝移植のための指針を公表。（25日朝刊）
- ……この2つのニュースは、梶原が6月9

- 日の授業の中であらためて紹介したが、タイムリーであった。
- 31 慶応大学グループ、男女産み分けに成功、X精子を分離、受精のニュース（同日朝刊）……6月2日の授業の際、コピーを資料として配布。
6. 19 ベトナムの結合体児、ベトちゃん・ドクちゃんが治療のため来日。（5月6日の授業で、二人の元気なときのビデオ・テープを全員で見っていたので、ベトちゃんの治療の様子には皆関心を寄せていた。）10月29日帰国
- 23 東海村の動力炉・核燃料開発事業団東海事業所で、IAEAの査察官ら12人がプルトニウムによる放射能汚染。
9. 7 日本産婦人科学会倫理委、男女産み分けについて、当面、遺伝病の予防治療に限定して認める意見書をまとめる。
- 24 日本移植学会は、専門医が脳死を判定すれば臓器を移植してもよい、との立場を明確にする。
11. 1 和歌山で新興宗教信者の女性7人が集団焼身自殺（同日夕刊）……11日の“自殺について”の際にも、話題となった。

II. 生徒たちは何を学んだか

田中裕巳

教育方法改善プロジェクト「生徒の学習意欲を高めるための様々な工夫」の報告書および次章の徳井論文においても、一部、触れられていることではあるが、この一年間の授業の中で、数回実施されたテストやアンケートの結果を紹介したい。ここに示された生徒たちの意見や反応を分析することによって、「総合学習」の時間が生徒たちにとっていかなる意味をもっていたのか、より正確な実像を把握することが可能になるのではないかと思う。

1. 一学期中間テストについて

中間テストの前書きと、テスト問題は次の通りであった。

高3「総合学習」第1学期中間考査問題用紙
「総合学習」生命について考える がスタートして2カ月。君たちも授業がどのように展開して行くのかわからない。私たち教師の側も生命をめぐる様々な問題を勉強しながら、最先端の問題をいかに君たちにも理解しやすく、そして君たちの問題意識につなげて行くかを考えて来ました。お互いに試行錯誤であり、手さぐりの状態でした。でもそれは仕方ありません。今回の試みは私たちとしても初めてのことであり、全国の高校をさがしてみてもおそらく初めての試みだと思えます。ですから参考にできる先例が全くないわけですし、適切なテキストも用意されているわけではありませんでした。

2年生の2学期末に配布し、4月の第1回の授業の

時にも配った「広告 総合学習への招待」を思い出して下さい。そこには、「生命について一緒に考えて行こう」という呼びかけがあるはずです。試験についても「暗記した量よりも、生命についてどれだけ深く広く考えたかが分かるような問題としたい」と書いてあるはずです。4月以後、10回の授業がありました。担当の教師たちはそれぞれにベストを尽したはずですが、君たちの方はどうだったでしょうか。

おしゃべりに終始したり、内職に精を出していることがなかったでしょうか。「生命について一緒に考えて行こう」としている大部分の生徒や教師たちにとっては冷水をかけられているようなものです。今後あらためて欲しいと思います。

従って、このテストも「暗記した量」を問うものではありません。10回の授業で説明を聞いたり、人の意見を聞いて「生命についてどれだけ深く広く考えたか」を、今の時点で自分なりにまとめて欲しい、というのがねらいです。

次の問題群から1つを選んで自分の考えをまとめてみて下さい。できるだけ授業で出された資料や説明、討議など関連づけて書いて下さい。選択した1つの問題からはみでて他の問題に波及して行くことは、いっこうに構いません。また、プリント、ノートなど何をみても構いません。

1. 別紙資料*を参考にして、農薬使用にともなう長所・短所の両面について述べなさい。
2. 羊水検査によって先天性障害児の発見、性別判定が可能になってきた。このような医療技術の発